

## (2) 中学校

平成23年度間の30日以上長期欠席者数は、平成22年度間より36人(4.1%)減少の835人であった。全児童数(平成23年度児童数 30,500人)に占める長期欠席者の比率は、全国の3.41%より0.67ポイント低い2.74%で、低い順に全国第5位(前年度第8位)であった。

理由別にみると、「不登校」が640人(構成比76.6%)で最も多く、次いで「その他」が142人(同17.0%)、「病気」が53人(同6.3%)となっている。

なお、全生徒数に占める「不登校」の比率は、全国の2.64%より0.54ポイント低い2.10%で、低い順に全国第4位(前年度第4位)であった。

表15 理由別長期欠席者数 (単位：人)

年度間	長期欠席(30日以上)理由				
	計	病 気	経済的 理 由	不登校	その他 *
平成18	914	79	-	802	33
19	952	64	-	858	30
20	946	104	4	733	105
21	885	73	3	700	109
22	871	56	1	690	124
<b>23</b>	<b>835</b>	<b>53</b>	-	<b>640</b>	<b>142</b>

\*「その他」には、「欠席理由が2つ以上(「病気」と「不登校」など)あり主たる理由を特定できない者」や「保護者の無理解・無関心から欠席している者」などが含まれている。

図5 理由別長期欠席者数の推移(30日以上)

